

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092300074		
法人名	社会福祉法人 ひなたぼっこ		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	長野県諏訪郡富士見町富士見11650-1		
自己評価作成日	平成29年4月25日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.nsvakvo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?iigvo=2092300074
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスマネットワーク		
所在地	長野県松本市巾上9-9		
訪問調査日	平成29年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを重視する取り組みを始めている。入居者の思いを聞き取り、それに沿えるように努めています。また、身体介護が必要な方のため、特殊浴を完備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

諏訪郡富士見町富士見南原山地区の自治会の一員として2ユニット(定員18名)が運営されている。同一敷地内には、宅幼老所と居宅介護支援センターが設置、運営されている。さらに、社会福祉法人ひなたぼっこは、原村にケアハウスの運営も行い、4事業所のそれぞれ独自の特性を有効に活用して、地域で暮らす利用者等の様々なニーズに応えるべく介護・福祉サービスの充実と連携強化に取り組んでいる。事業所の運営は、「わが家」と同じ暮らしを大切に、日常生活のあらゆることを利用者さんとスタッフが一緒に行うことで認知症の症状を緩和すること、また、利用者さん一人ひとりの能力に応じて自立した生活を送ることを目的として、個別ケアを重視した取り組みを実践している。地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念の具体化に取り組んでいる。安心して暮らすことのできる場を提供したいという思いで質の高いサービス提供に努めている。利用者の居るところには必ず職員がいて、常に寄添いながら温かい視線や声がけ、語らいがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(1階)		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(2階)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (11, 12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ほぼ実践できている。	平成22年開所時に事業所独自の理念及び基本方針が作られ、今日まで大切に継続されている。事業所内で多くの方が目にし易いホールに掲示されている。地域密着型サービスの事業運営や利用者へケアサービスを提供するうえで理念に基づいた実践を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	常時の交流していないが、俳句、詩吟などのボランティア、高校生の実習生の受け入れ、中学の文化祭に出掛けたり町の文化祭、生活展に作品を出展し見に出かけている。町の、ボランティアの登録団体にも来て頂いている。	富士見町南原山地区の自治会に加入している。地域の中学生や高校生の職場体験など積極的な受入や施設開催の秋祭りに地域の方々との交流を図っている。町の文化祭へ利用者の作品の出展や見学、俳句や詩吟のボランティア受け入れなど地域の人達と触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏祭りに地域の皆さんを招待したり、見学やボランティアの方を受け入れ日常の支援をありのままに見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年に6回行う。参加者や入居者の意見を参考にしている。また、会議録を公表している。ご家族の参加は少ない。	事業所の運営内容や利用者、職員の状況など見やすく解りやすい基本資料を基に事業運営改善に向けて会議が開催されている。保険者、行政、民生委員、介護相談員、利用者家族の各分野から出席を得て、それぞれの立場からの意見や提言はサービス向上に向けた取組に活かされている。会議録は玄関の掲示板に誰でも閲覧できるように公表されている。	事業所が地域密着型サービスとしての役割を果たすために適切にこの会議が機能していますが、より地域の理解と支援を得るために区長、警察、消防署など新しいメンバーの人々が積極的に関わられるような働きかけや会議の内容や方法などの工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム推進会議などで取り組んでいる。介護相談員の訪問を受け相談や意見をケアの向上に繋げている。市町村がらみのイベントや、事業所連絡会に、なるべく顔を出すようにしている。	保険者である諏訪広域連合介護保険課及び町役場福祉課の担当者とは、日頃から事業所の実情や利用者の暮らしの様子やニーズなどを伝え、連携を深めている。会議や研修会には、積極的に参加して行政、地域の情報を得ている。町からの介護相談員の定期訪問あり「来訪記録」作成し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	認知症の施設であるため玄関の施錠は必要と思われる。身体拘束と思われる行為には、その都度話し合い別の方法に回避するよう努めている。	毎月のスタッフ会議等で高齢者の身体拘束や虐待及び不適切ケアについて話し合われ、職員の拘束しない介護への認識が共有されている。職員による見守りや連携を徹底し、利用者の心身状態を正確に把握することで安全面に配慮された暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月1回のスタッフ会議、月1回の拡大所長会議、所長会議で意見交換を行っている。また、直接入居者からの苦情に対しても管理者が注意、指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者教育などを受け、スタッフに伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分な説明を行い、納得されていると思う。新制度導入時は文書を送り、同意を得てから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見を言いやすい、関係作りに努めている。直接言いにくい場合は玄関に意見、苦情など書いて入れていただく箱を用意している。運営推進会議、介護相談員の意見も反映している。	法人発行のお便り「ひなたぼっこ通信」を家族全員に配布して法人運営の各種事業内容の理解を図っている。家族の面会時に会話する機会を大切にして、意図的に働きかけて情報交換を密にとり、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。全利用者家族へアンケートの実施や玄関に意見箱を設けて、意見や要望を出せるよう工夫されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議、拡大所長会議、所長会議で機会を設け、また、その都度意見、提案があれば検討している。	法人及び管理者との面談を年2回実施されて職員の意見要望が反映されるシステムがある。また、管理者は日々の業務の中から職員の運営に対する意見や要望を聞くように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己啓発に力を入れている。各種試験への助成金制度などを取り上げている。一時金についても毎年アップさせている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	自己啓発を重視し、互助会による自己啓発助成金の導入や年に1度は教育学習会への参加を行っている。今年度より、施設内学習会を、定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町内の事業所連絡会での情報交換をしている。相互訪問等の活動は、できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の不安が何かを傾聴する事で安心できる暮らしを支援する様努めている。また、それぞれに合った役割をもっていただくことにより施設が居場所になるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族からの要望等で即対応できる事は行い、時間をかけ、継続して支援する必要がある内容は説明して信頼し、待っていただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最優先すべき支援はプランにてみんなで共有し、それに沿った対応に努めている。また、社会資源を利用し、必要と思われる支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本意を尊重しながら、一緒に行えるよう無理強いのしない支援をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	更新の際にご家族の意向をお聞きし、ご本人の状態をお話しした上で、こちら側の意向もお伝えしている。ご家族にも現在出来ている事に目を向けて頂けるような話をさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設側からの働きかけはしていないが訪ねてこられた方にはまた来所したいと思われるような対応を心掛ける。ドライブで家の近くへ行ったり、通った学校に寄ったりしている	友人、知人からの電話の取次ぎ、便りや年賀状を出したいなどの要望に対応して、これまでのつながりを継続できる支援をしている。また、利用者本人からの外出希望時は、家族と連絡を取り合い実施できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しない配慮はできていると思われる。レベルの差が出てきている為、今後も関われる機会を沢山作るよう、努めていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて行えるよう、退所されるご家族には、声をかけさせて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人にお聞きしたり、日々の生活の中で様子や発言で把握に努めている。言えない方に関しても、発言や表情で出来るだけ把握できるように努めている。	担当職員やケアマネが中心となり、日々の関りの中で利用者個々とゆっくり一緒に過ごす時間を大切に話し話を聞き出せるよう努めている。また、家族から得られた情報も大切に思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の生活の中で、ご本人と会話して把握したり、ご家族からお聞きしたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士の情報を共有しながら、現状の把握に努めている。生活していく中で、状態を記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングや、会議等で話し合った中からケアの案を取り入れている。ご家族にも、お聞きしたりケアの案を伝え、介護計画を作成している。	毎月開催のスタッフ会議時に利用者個々のカンファレンスを実施して短期目標・サービス内容を項目ごとに具体的に評価している。本人や家族から生活に対する意向や関係者からの意見を活かして介護計画に反映している。変化が見られた時には随時、見直し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残したり、日々の業務の中で情報を共有している。結果に基づいて、見直しを行っている。去年から、記録は、紙ではなくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外部から情報を取り入れ、職員間で案を出し合いながら、ニーズに出来るだけ近付ける様に、サービスの幅を広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を取り入れ、支援を行っているが、まだ取り入れるものがあると思うので、把握し、ケアにつなげていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	急な状態の変化には、病院受診を行い、また、往診に来て頂いている先生には、連絡を取り、ご家族ともスムーズに連携を取っている。	地元の富士見高原病院と原村の中新田診療所の協力医による受診体制がある。家族と連携を取り受診しているが都合がつかない時には施設看護師が対応している。受診時には、事業所より利用者の一般バイタルや介護状況など情報を家族に提供して適切な医療が受けられる支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職からの異常時の変化には、耳を傾け、また、介護職からは常に連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に際しては、わからない事があれば連絡を取り、退院時に際しては病院のソーシャルワーカーと家族と連絡を取って、細かく話を聞くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人はもちろんだが、今後どうしていきたいかという段階。書類を取り直している。	入所時に事業所の重度化や終末期への対応指針について説明し対応方針の共有を図っている。利用者に変化が見られた時には協力医、施設管理者と関係職員、家族らと話し合いがもたれ、本人・家族の意向を確認し、同意書を得ながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に1度のAEDの実践勉強会や、年間行事計画を立てて、応急法の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、年3回行っている。最近、宅幼老所と合同でやることも多い。	消防署の立会いを得て、利用者の安全な避難方法を全職員が身につけるように、同一敷地内の事業所合同で避難訓練を実施している。緊急連絡網による伝達訓練、消防署への通報訓練と災害時の対応への備えは出来ている。	いざという時に慌てず確実に避難誘導ができるように備えていくことが大切で、職員だけの誘導の限界を踏まえて、今後は、地域の方々や団体、組織からの協力が実際に得られ、一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みができるよう地域との協力体制の構築と災害に備えた食料品、介護用品、毛布など備品内容の見直しを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手の立場になり、接する様みんな徹底している。接遇月間を設け、接遇に関しての自己評価を実施、自身の対応に意識を持つこと、管理者がそれぞれ自己をどう評価しているか知ることによって今後の指導につなげる。なるべく定期的に行い、スタッフ自身が振り返る機会を作っていきたい。	年に一回、接遇月間を設けて自己評価を実施して、相手の気持ちを大切に考えて接することを心掛けている。管理者を中心に利用者の誇りやプライバシー確保について日常的な確認と改善を事業所全体で取り組んでいる。居室への入室時にはドアをノックして声がけするなどの対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと焦らせることなく思いを伝えられる対応を心掛けているが、選択による自己決定の場面も多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いはいしていないが、施設での生活パターンに沿って支援しているのが現状である。対応できる範囲内での希望にそえるよう努力している。起床時間、食事時間はその時々体調に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方らしい身だしなみは手持ちの服の中でその人らしさは感じられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備から片づけに至るまで、その方の力量に合ったお手伝いをお願いし、一緒に行っている。食べ物の好みも把握している方には、食べやすいものを提供している。	季節ごとの行事食や月一回の食事会を開催している。職員と利用者が同じテーブルを囲んでお喋りしながら楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。手作りおやつを実施し、咀嚼や嚥下が困難になってきた利用者に対してムース食が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調不良時や義歯の装着状態に応じて食事形態等の工夫をしている。水分摂取量の少ない方へは飲んでいただけるよう声掛けやチェックシートにて量を把握し促しや摂りやすい飲物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後援助が必要な方には一緒に行っている。拒否がありうがいもできないときは口腔内に食物が残っていないか確認し殺菌作用のある緑茶を飲んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	夜間を除き、全員トイレでの排泄可能、その能力を維持できるよう支援している。また、排泄表にして排泄パターンをつかみ、失敗のないように心掛けている。トイレの場所がわかるよう表示している。	各ユニットに4か所トイレが設置されている。利用者全員の排便表が作成されて、把握した排せつパターンに添いながら、常に職員は、排せつの自立を意識して声かけやトイレ誘導を積極的に行われている。トイレでの排せつ介助を習慣としている。職員間での申送り時では、排尿・排便など細部にわたり報告し合い利用者個別の排せつ支援が実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ご自分で訴えられない方には毎食後トイレに座る習慣づけ、水分大目に摂っていただく。朝食後のヨーグルトと、おやつにできるだけ果物を取っていただくなどの対応をしている。牛乳を飲んでいただいている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は決められているが、ご本人の体調や拒否により、入浴日や時間の変更は行っている。	月～土曜日の午前中に3名の入浴を実施している。利用者の好みのお湯の温度や入浴時間の長短など利用者個々の要望を尊重、職員マンツーマンによる安全な入浴を努めている。リフト浴槽を導入、利用者の身体状況に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々にご自分の居室で自由に休まれている。休まれない方へは昼食後の午睡を勧めている。介助必要な方へは排泄を済ませ臥床していただいている。夜間は寒い日の暖房や電気アンカで室温調節し、眠れやすい支援をしている。夏場はずだれとクーラーで室温調整している。なかなか寝付けない方への不安を取り除くため傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は個人のファイルに挟まれている。服薬の注意点など説明はしている。看護師が薬の変更等ある場合は連絡帳や個人記録に記入して全員に確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お花見、足湯、花の里周遊ドライブ、ぶどう狩り、紅葉狩りと言った季節に沿った外出を行い気分転換をして頂いている。地域の生活展、文化祭に作品を展示して見学に行っている。週3回、1F、2F合同レクを行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の高齢化に伴い、介助量が増えてきており、思ったより外出がしにくくなってきた。	利用者の希望や心身の状態、天候などを考慮しながら施設付近の散策や外気浴を取り入れて気分転換やストレスを溜めないよう外出を活用している。利用者の希望に沿った買物などの外出計画を家族協力を得ながら立て、戸外へ出る機会を多くなるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭を所持したり、お預かりしている方はおらず、必要な品は職員が購入しまとめて請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望のある方はご家族の都合を考慮し、電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビを楽しんでおられる方々の周りで大声での職員間の話(必要な申し送り含めて)注意している。不必要なテレビの付けっぱなしはない。リラックスできる音楽を聴く等に注意を払っていく。季節感を味わう花は随時飾っている。利用者個々への大声での声掛けも注意している。	窓からの採光も良く、明るく十分な自然光を取り入れている。温かみのある木目の床やドアは、落ち着きや安らぎを感じさせる。ホールとキッチンが一体化していて職員と利用者が常に関り易い状況である。利用者にとって使い易いソファやテーブルの配置されている。行事の写真や利用者の俳句が飾り付けられるなど生活感があり一人ひとりが居心地良く過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	掘りごたつのスペース、ソファ2ヶ所長椅子など配置し思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にも馴染みの品をお願いしている。皆と同じような個性の少ない居室でお布団はご自身が使用されていたものが持ち込まれている。ご本人の作品を飾ったり行事での写真等ご本人の意向を聞きながらお部屋作りをしている。	居室にはエアコン、ベッド、マットレス、洗面台、押入れ、コルクボードが用意されている。また、全居室の窓にはすだれが掛けられて室内温度の低下して夏を涼しく過ごすための工夫がされている。持ち込みに制限はなく、利用者や家族の希望で、使い慣れた家具や家族写真、思いでの品々などが置かれていて一人ひとりが落ち着いて過ごせる部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレでの排泄に努め、立位、移乗等ご本人の力を活かして安全に行えるようにしている。		

(様式4)

事業所名 グループホームひなたぼっこ

目標達成計画

作成日: 平成30年 3月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	確実に避難誘導ができる準備が不十分である	避難誘導の準備の充実を行う。	1Fでは、歩行器を普段使用している人が目立つため、有事の際に逃げ遅れる可能性がある。日頃から、車椅子での素早い移乗、移動や、毛布などを使った利用者搬送の練習をしていく。また、避難経路の確認をする。3日間はおもつくりの食料、介護用品、毛布など定期的に備蓄していく。	12ヶ月
2	1	理念の確認	1人1人が施設の理念を理解する。	定期的に、理念について話しをする。	12ヶ月
3	4	運営推進会議のメンバーが少ない。	幅広い地域の人への出席を促す	今のメンバー以外に、呼べる可能性のあるメンバーを模索する。開催時期の見直しを行う。	12ヶ月
4	35	確実に避難誘導できる体制がまだ不十分	確実に避難誘導ができる体制を整える	2Fでは、車椅子の方が多く、1Fまで避難がしにくい現状がある。有事の際は、スタッフを呼ぶだけでは対応が難しいため地域の人に協力してもらい体制を整える。	12ヶ月
5	35	食料の備蓄、介護用品、毛布等避難生活に必要な、備蓄がそろっていない。	備蓄を蓄え、有事の際に備える	備蓄を確保するスペースがないため、同じ系列の事業所に、一緒に備蓄品を置かせてもらう	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成して下さい。